

DVD 講演（質問）

<講演 2> 不規則抗体検査のテクニック 日高陽子 先生

- 不規則抗体検査において反応増強剤が無添加の場合、検出できない IgG 抗体はどのようなものがありますか？
検出感度に差があるため、抗体の種類ではなく抗体価の低い IgG 抗体が検出されない可能性があります。
- 抗体検出感度を上げるために抗体を過剰にした場合、反応増強剤も増量した方が良いのでしょうか？
マニュアルに則った検査を行う事が基本です。
- 生食法と IAT 法で反応が違う場合、生食法では消去法を行なわないと話されていました。臨床的意義が低いからなのかもしれませんが、複合抗体など見逃す可能性はあるかと思います。生食法で消去法がいらぬ理由を教えてくださいませんか？
赤血球型検査ガイドラインより、
「消去法による‘否定できない抗体’の推定は、輸血を前提とした場合、原則として間接抗グロブリン試験の結果を用いて行う。オモテ・ウラ不一致の原因を検索する場合や低温反応性抗体が間接抗グロブリン試験の反応に影響する場合、時に生理食塩液法での消去法が有益な場合がある。」
- 抗体スクリーニング検査において、血清量増加法を実施した場合、反応増強剤が希釈され感度の低下の可能性があると話されていましたが、LISS は増した血清量に応じて増やしたり、PEG についてはあまり影響がないと認識していましたが、どのような場合でも影響があるのでしょうか？
抗体スクリーニング検査で血清量増加法を実施していないので分かりません。
- 不規則抗体検査を実施する間隔は施設で異なると思いますが、輸血のどの間隔で実施するのか大まかな目安がありますか？現状、輸血後 3 日ぐらいでは不規則抗体スクリーニングは実施しておりません。
赤血球型検査ガイドラインを参考にしてください。
- 不規則抗体検査で検査室に置いておくべき試薬を教えてください。
不規則抗体検査を実施するための試薬
スクリーニング赤血球、反応増強剤、間接抗グロブリン試薬、IgG 感作赤血球
望ましいと考えられる試薬
同定用パネル赤血球、各種抗血清、酵素試薬（抗体同定検査補助用）
- 合わせの具体的な方法について教えてください。
質問の意味が理解できません。